

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム いくくしみの郷
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	浜松市浜北区平口2406-1
記入者名 (管理者)	内藤三記子(長尾直実)
記入日	平成19年9月25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「気持ちの良い生活」とし、入居者全員が日々理念に基づいて生活が送れるよう、職員はひとりひとりに合ったケアができるように心がけている。	○ 職員全員、肝に銘じておく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	何か気づいたことがあれば、勤務内でも少し時間を設けて、入居者について話し合うようにしている。	○ 引き続き、気づいたことはマメに話し合い、問題解決していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関先に書道で書いた理念を飾り、来客者にも見てもらえるようになっている。	○ 地域の方にも知ってもらえるような機会を作る。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者と職員で外を散歩した際、よく会う近所の方とあいさつやお話をしている。入居者の中には、知り合いの方もおり、良い話し相手になっている。	○ ご近所の方も行事に参加できるような取り組みもしてみたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りなど、こちらの行事の行事に参加して頂いたり、近所の幼稚園の夏祭り、敬老会、運動会などにもお招きを頂いて参加したり、地域の方との交流を図っている。	○ ご近所を招いて行事に参加してもらえるような取り組みもしてみたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者に対する介護については勉強会等で話し合っているが、地域の高齢者に役立つ内容は、あまり話し合われていない。	○	勉強会で入居者だけでなく、地域のことに目も向け、考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かして具体的な改善に取り組もうと努力はしているが、なかなか難しい。	○	ひとりで考えるのではなく、外部評価等によって分かったことを賞金全員で話し合い、これから改善すべき点をみんな考え、努力していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事報告や質疑応答を行っているが、淡々としたものになっているように思える。	○	会議の内容を濃く、よりよいものにしたい。どんなことを会議の場で話し合いたいのか、家族にも聞いてみたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度、介護支援相談員の訪問をお願いしている。その内容を書面にて郵送してもらい、職員が提供しているサービスの振り返りの材料としている。	○	今後も介護支援相談員の訪問を取り入れ、サービス向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ、ケアマネージャーである管理者と1階計画作成担当者は、必要時対応できるよう学んでいる。	○	他職員にも今後勉強会などで学ぶ機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はない。入居者の虐待はテレビでも問題になったりすることもあるので、決して軽視はせず、普段から注意・防止できるよう心がけている。	○	職員個々で思ったこと・感じたことを普段の業務内で話し合いの場で共有したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まず入居時に利用者や家族と話をし、アセスメント・情報収集をしている。これから生活していくうえで必要な情報を聞いている。	○ 引き続き、生活していくうえで必要な情報を聞いていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支援相談員の方が月に一度、定期的に訪ねてくださる。	○ 支援相談員の方は基本的に入居者の方たちとお話されるので、職員も話し合いの場に入って、支援相談員の方の想いを直接聞いてみたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、定期的にお便りを発行し、定期受診等の報告や預かっているおこづかいの集計など、月初めに郵送されている。	○ お便りは各階で作っており、なかなか好評なので、今後は頑張って作成していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人面談の時間を設け、家族の意見や希望を聞いている。	○ きちんと定期的に行いたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングやカンファレンスを通して、管理者に報告・助言を頂いている。	○ マメに助言をもらえるようにしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月間行事に関しては前月のミーティングで決め、勤務表を作成する時に配慮している。突然の要望に関しては、出来る限り可能にする為に調整をしている。	○ 可能な限り、要望に答えていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者から、「そんなにしょっちゅう職員が変わるととても不安になる。また次に新しく来ても信頼できない。信頼関係を築くのがより難しくなる。」と打ち明けられたことがある。	○ 頻繁に移動がないようお願いしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に交替で研修へ参加できるよう機会を設けている。施設内でも毎月職員が司会者となって勉強会を実施している。	○ いろいろな知識を取り入れて、業務に役立ていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、いろいろな情報を得ている。その他、公的な研修には必ず数名出席させている。	○ 勉強会や交流の機会の情報を幅広く仕入れていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に数回、懇親会を開くための協賛金の提供がある。年末には、大忘年会にて職員全員が交流し楽しむ機会がある。また、勤務表作成時は休日希望を必ずとり、希望が叶えられるよう工夫している。	○ 今後も引き続き、取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	計画作成者の努力を認め、手当てをつけてくれた。また、要望等はほぼ全て受け入れてもらっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	他の入居者・職員と少しずつ馴染みながら、普段の生活の中で不安なことはないか、本人からこまめに話を聞くよう心がけている。	○ 慣れるまでなるべくひとりの職員が付き添えるようにしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時には近況報告をしている。家人面談の時間を設けている。	○ もう少し詳しく話せる場を作りたい。運営推進会議への参加を勧めてみる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に、グループホームへの入居が最適であるのかどうかの見極めをし、第三者的な立場で相談に応じている。	○	継続していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初慣れないうちは家族にママに面会へ来て頂けるようお願いしている。慣れた職員とマンツーマンで過ごせるようにしている。	○	引き続き、慣れないうちはママに面会へ来て頂けるようお願いしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時には孫のように、友人のように、生徒のように、その方が一番親しみやすい雰囲気で接することができるよう心がけている。	○	親しみやすい雰囲気で接する中、尊敬の気持ちも忘れずにいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をして、本人の状況を把握してもらえるよう心がけている。	○	引き続き、面会時には近況報告していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	まず職員が面会に来てくださる家族との仲を深め、お互いの用件を職員が中に入って伝えることでスムーズにはかどる時もある。	○	どなたが誰の面会者なのか把握し、あいさつを交わしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は自由に行われている。本人より要望があったら馴染みの美容院や自宅へ連れていって貰う方もいる。(家族には了承済み)しかしそれは全員ではない。	○	ひとりひとり馴染みの場所へ出掛けられるよう月に一度、2週間に一度など頻度を決めて連れていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎月の行事に参加することで交わりができています。普段からもよくおしゃべりされているが、話しかき合わなかったり、耳が遠い入居者には、職員があいだに入り会話がスムーズにできるよう手助けしている。	○	固定の人だけでなく、いろんな人と交わりができるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されてしまった方には必ずお見舞い・面会に行つて様子見に行くようにしている。	○	引き続き行いたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から「困っていることはありませんか？」「分からないことはありませんか？」と、聞くようにしている。3ヶ月評価等を参考にし、その都度職員間で話し合い、本人の意向に添えるよう努力している。	○	引き続き声掛けしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはアセスメントをとり、分からないことがあれば面会時にも聞いて、ママに家族から情報収集している。時には本人から話を聞くこともできる。その情報を記録に書くことによって情報の共有に努めている。	○	ひとりひとりがちゃんと記録し、職員全員でさらに情報の共有に図りたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ひとりひとりとの関わりを大事にしている。生活記録をママに記入することで日頃の生活状況を把握するようにしている。	○	ひとりひとりがちゃんと記録し、職員全員でさらに情報の共有に図りたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス・ケアプラン会議・家人面談等で意見を交換し、意見が反映されている。しかし、計画作成者がひとりで作ってしまっている。	○	プランを立てる前に、ちゃんと職員間で話し合いをし、一緒に作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン会議では見直しを行い、直したほうがよいところは変更し、新たな計画を作っている。	○	職員全員で見直していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の生活の様子から変わったこと、変化について、こまめに記録している。個人的に感じたことや気づいたことを勤務内でも話し合うようにしている。	○	記録に重要性・大事さを再認識していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	いつでも本人、家族の希望に添えるよう、制止することなく応じている。	○	いつでも本人、家族の希望に添えるよう支援していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	万葉の森・森林公園・市の図書館の利用や平口幼稚園の行事へ参加等させて頂いている。	○	利用できる施設の幅を広げていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用できない。ただ、退去する際の居宅の紹介等はしっかりさせて頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ケアマネジャーの研修での交流はあるが、施設自体の協働作業は無い。	○	グループホームとしての接点があれば今後協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同系列の病院への定期受診が毎月行われている。緊急時の医療体制も連携をとっている。	○	引き続き行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診へ行き、主治医が相談にのってくれる。認知症に関する診断や治療は不明。	○	より詳しく認知症に関する診断や診察を受けられるようにしたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設内に専属の看護師がいるので何かあれば、報告・対応してもらっている。	○	利用者が困ったことなど訴えたら、直接診て話してもらえるようにしたい。定期的に様子を診に来て欲しい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	同系列の病院に入院された場合は、情報交換をマメに行われている。早く退院できる場合は、部屋をそのまま確保している。	○	引き続き行っていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階で家族との面談を交え、方向性を明確にしておく。しかし全員ではない。	○	利用者全員、方向性を考えていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者は今までにいない。近隣の同系列の病院と連携をとり、今後の変化の対応に備えている。	○	引き続き行っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人への負担を最小限の抑えられるよう、十分に話し合い、努力している。	○	引き続き、本人へのダメージを防いでいけるよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	プライドが高い方は、プライバシーにも敏感だと思うので、とにかく気をつけている。また、その方にとって傷つけてしまうような言葉な何なのか、その方にとって言ってはいけない言葉とは何なのかを理解し、会話するよう心がけている。	○ 一人で気をつけるのではなく、職員全員で把握していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	必ず何事も本人に聞いて、提案しながら最終的な判断は自分でしてもらっている。職員の言葉が本人にとって理解できなかった場合は分かりやすいような言葉に言い直し、納得してもらえるよう心がけている。	○ 無理じいだけはしないよう気をつけたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の習慣をこなすと共に、どんなことをしたいか本人に聞きながら話している。希望を聞き、第一に利用者のペースを大事にしている。	○ 小さなことでもいいので、毎日全員で行っていききたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人から要望があった場合、行きつけの美容院への送迎を行ったり、出張美容院を頼んでいる。	○ 数人だけでなく、可能な限り皆の行きつけというものを作ってあげたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の昼食作りは、利用者の方の好みに合わせて献立を話し合い、お手伝いをして頂いている。また季節感を味わえるようなメニューにも気をつけている。	○ 引き続き行っていききたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	例えば、コーヒー好きな方には飲みたい時自由に飲めるよう支援している。また、皆で買い物に行った際は、個人的に好きな食べ物や趣味のものを購入されている。	○ ひとりひとり満足してもらえるよう、引き続き支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な方には排泄記録をつけ、排泄のパターンをつかめるようにし対応している。声掛けする場合は、羞恥心を傷つけないよう心がけている。また残存機能を生かしてトイレで排泄できるよう、オムツはできるだけ避けて、布パンツやパットを使用し支援している。	○	全員統一したい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	まくまでも本人の希望を取り入れ、午前から夜間まで一日中いつでも対応している。入浴剤なども使用。	○	希望の時間が重ならないよう気をつけて調整していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕方から夜間は極力興奮させないよう気をつけ、夜間の安眠に繋げている。大仕事は職員がやるようにし、無理しないよう配慮する。	○	とにかく興奮させず、職員は常に穏やかに話して安定させていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭で家事をされていた方は掃除や料理、食器拭きを、農業をされていた方は草取りなど、本人のできそうなことを職員と一緒にやっている。それぞれ何かしら役割を持ってもらっている。また趣味である習字や川柳をやる機会を作ったり、絵手紙も行っている。	○	トラブル防止に努めたい。影で支えられるようにしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にも少しのお金を持ってもらい安心してもらっている。使わない時は、事務所に保管し、買い物へ行った際財布を渡し、自分でお金を使えるようにしている。	○	お金に関してのトラブルは避けたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人より訴えがあったり、他の利用者が外へ行かれる時などなるべく散歩へ出掛けたり、買い物へ出掛けている。しかし全員ではなく、特定の方のみ。	○	ひとりひとり行きたい店や場所へ行けるよう、個人的に出掛けられるよう、計画していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別で近所のスーパーへ行ったり、自宅へ帰ってみたりする方もいる。しかしトイレの心配や外出の苦手な方もいるのであまり遠くへは外出できていない。遠出できる方は家族の方と外出される方もいる。試みとして、30～40分車に乗ってイチゴ狩りに出掛けたことがある。	○	最低でも月に一度は全体の外出以外でも外へ出られる機会を作りたい。全員。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎは職員でし、いつでも対応している。手紙も書かれる方がおり、近くのポストへ一緒に行って投函している。全員電話での会話はできている。また季節ごとのあいさつとして年賀状を書いたり、行事で絵手紙も行った。	○	絵手紙は定期的に行ってみたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に面会できるようになっている。面会者の多い場合は、居室以外の場所(会議室)を提供している。	○	初めて面会にみえた方には、少し気を配ってみたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束を行うことは決してない。危険の予測がされる場合は、その方について理解をし、事前に防いでいる。	○	さらに危険の予測をして未然に防いでいき、今後も拘束されるようなことがないように、気をつけていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵がついているが、それは本人の意思でかけられるようになっている。その他は鍵を掛けず、エレベーターなどすぐに乗れるような状態になっている。夜間は安全のため、非常口や玄関は鍵をかけている。	○	今後も鍵をかけないケアを実施していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食堂に姿が見えない時は、訪室するなど所在を確認している。居室で過ごされている場合は、本人の様子を見計らって、必要な時に声掛け等行っている。	○	所在が不明なんてことはないようにして、さりげなく把握していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方にとって本当に危険なのかどうか、過去の記録や職員・家族と話し合い、判断するようにしている。使用する場合は職員見守りの元、使うようにしている。	○	危険には、より早く察知していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	居室には転倒防止マットを使用を敷き詰めている。また勉強会などで知識を取り入れ、過去の記録などから危険を予測し、事故防止に努めている。	○	転倒防止マットが古くなったり、伸びきったりして使えなくなったら、すぐに交換し、綺麗にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルがすぐ手元にあり、それに沿って対処している。くれんは定期的に行われていない。	○	定期的に訓練があったらいいと思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年定期的に防災訓練が行われており、基本的に利用者全員で参加している。しかし地域の方への働きかけはしていない。	○	避難訓練の知識・技術をさらに身につけ、地域の方への働きかけを行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	施設へ入ることによって予測できるリスクなどは事前に家族と話し合い、一緒に対応策を考えている。	○	予測できるリスクをさらに明確にしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日検温と血圧測定を行い、体調の具合を聞いて毎日の些細な変化に気づいていけるよう、観察している。気付いた際には看護師に報告して、指示は仰いでいる。	○	毎日のことだが、常に対応していけるよう、報告しあうことを忘れずしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員室で管理しており、利用者がどんな薬を内服しているか把握するよう努めている。	○	大事な内服薬なので、職員全員できちんと把握していきたい。薬が変更された場合は再度確認していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬にはなるべく頼らず、朝食にプルーンや、おやつにバナナヨーグルトやさつまいもを蒸かしたり、時には牛乳を温めてあげたりと、ひとりひとりに考えて提供し少しでも手を加えるようにしている。	○	運動や他にも便秘解消・予防できることを調べていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	汚れているのを見かけたら歯磨きの声掛けをするが、なかなか口腔ケアはできていない。	○	口腔ケアは可能な限り実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食堂でくつろがれているときに飲み物を提供したり、ゼリーを食べることで少しでも水分摂取に心がけている。水筒を居室に置いている方もいる。各自の身体機能に応じて水分補給できるよう努めている。	○	引き続ききちんと満足に水分摂取できるよう心がけていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルがあり、それに対応している。掃除も手袋を使用している。	○	引き続き普段から気をつけて、予防・対策していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は毎日夜にハイター消毒を行っている。台所はキッチンと掃除をし、食材もなるべく前日に購入し、新鮮なものを提供するよう心がけている。賞味期限・衛生面に注意し、調理器具も使ったらすぐに洗い、清潔を保つようにしている。	○	汚れたらすぐ掃除するよう心がける。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外の玄関先には利用者の方と一緒に花を植えた鉢植えがある。2階の入り口も季節ごとの花や絵葉書を飾ったりして、さりげなく工夫するようにしている。	○	花が枯れてしまった場合は、すみやかに撤去し、新しい花を植えていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはさりげなく季節の花を飾ったり、日差しの激しい時はすばやくカーテンをひいている。不快な音がしたら原因を探り、すみやかに対処している。	○	施設にしながら少しでも生活感や季節感を感じられるような工夫をさらにしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはソファを置いたりテーブルを少し離したり、少し離れたエレベーター前にもソファを置いて、仲の良い利用者同士、小単位で過ごせることが可能になっている。	○	もう少し個別でゆっくり出来る場所が提供できるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者が家族と相談し、家具の配置や愛着のある品々を置かれている。家族にも自宅で使い慣れたものを持ってきて使えるようお願いしている。しかし新しく買い揃え混乱している方もいた。	○	いくら使い古しているようなものでも、利用者の大事なものだということを受け止め、一緒に大事にしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時は各居室の窓を開け、換気をしている。あまり冷暖房は使用せず、自然の風を取り入れるようにしている。時節柄、居室の入り口にはのれんを掛けている。冷暖房を使う際は、温度調整には細心の注意をしている。	○	引き続き利用者の様子を観察しながら、迅速に対応していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの回りに柵を使用し、廊下や居室の洗面台横には手すりをつけ、安全で自立した生活ができるか環境になっている。	○	手すりや柵を使う際の安全面を強化したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	尊敬の気持ちを忘れず、各利用者の分かる言葉で、分かる内容で話しをするよう心がけている。普段の生活でできることはお願いし、そばで見守りながら分からないことは優しくゆっくり教えられるよう気をつけている。	○	各利用者を混乱させない話し方を身につけ、徹底する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには利用者が買い求めた花を自ら植えられ、朝晩の水やりをしている。またベランダへ出てきて体操をしたり、気軽に涼みに来られる方もいる。	○	外周りやベランダを掃除してきれいにし、利用者がもっと活動できる場を提供したい。数人ではなく、いずれは皆で。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

週2回の昼食・おやつ作りを利用者中心に和気あいあいで行っている。献立の検討や買い物、料理に利用者が参加され、嗜好も取り入れるよう努力している。外食も毎回同じ店ではなく、少しでもいろんな店へ足を運べるよう車イスでも入れるお店を探し、たくさんのお店へ出掛けている。買い物もいくつかの店を交替で足を運ぶことによって、なじみの店という愛着が感じられるようになっている。誕生日会もひとりひとりその日に開催して、全員でお祝いしている。プレゼントも恒例のメッセージカードと好きなものをプレゼントしている。毎月の行事を通し、利用者同士の触れ合いを多くとるようにしている。また、地域の幼稚園・保育園児との触れ合いを図られている。毎月各フロアごとにおたよりを作成し、ホームでどんな生活をしているのか少しでも見てもらえるように、と作成している。